

かわべ

かわべ

発行
河辺村公民館
編集
館報編集委員会
☎ (089339) 2017
佐川印刷 KK
吉田町北小路 ☎ 2-0600

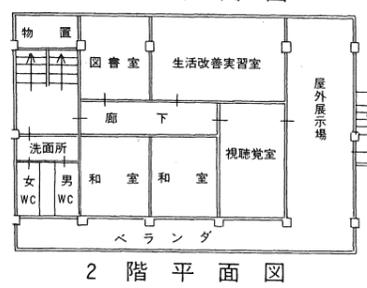
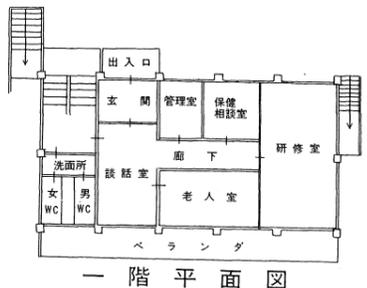
河辺村人口動態

(S. 53. 10. 1. 現)	世帯数	609
	人口	2,247
	男子	1,133
	女子	1,114
(S. 50. 10. 国調)	世帯数	666
	人口	2,368
(S. 45. 10. 国調)	世帯数	718
	人口	2,810

コミュニティーの拠点として 来春完成をめざす 「基幹集落センター」

わが村も地域総合開発という「実習、保健および福祉活動、村民新しい村づくり」に取り組み、の交歓の場として「活力ある村づくり」の総合的拠点として「基幹集落センター」の建設を山振第一期（五一年〜五四年）施策の目玉事業として迎えるようとして、基礎工の着工した「基幹集落センター」は山村振興事業のうち特別対策事業として実施しているものです。

この施設は、村の産業振興上不可欠の農林業等の経営知識や生産技術の研修、情報交換、生活改善計画、県及び国の認可を受け、

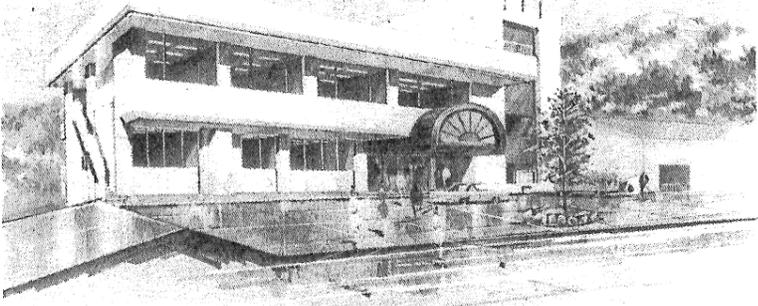


実施設計など、具体的な作業をすすめる段階に至った昨年の九月頃から、村の予定していた建築位置の植松が全村的合意に至らず、村議会や区長会、各種団体代表者等によるたびかさなる協議のなかで、出合、土やしろと変更しました。たが本年六月末、最終的に当初予定の植松に決定しました。

二施設の内容、事業予算
(一)敷地面積は一、三三三㎡(うち建築面積三二五㎡)
(二)建物の構造規模は鉄筋二階建一部二階で冷暖房つき。
地階一九一㎡、一階二二二㎡、二階一四〇㎡、一部三階二二㎡、

河辺村、河辺建設株式会社
八幡浜市、大任建設株式会社
松山市、福本建設株式会社
(一)工事指名競争入札は本年七月一四日午後一時三十分より村役場において執行。
(二)落札および工事請負業者は河辺建設株式会社社長大野善久雄
(三)工事請負金額は九一、三〇〇千円

以上のような事務手続きを経て七月一七日に工事の仮契約を結び同月二〇日に起工式を行い工事に着手しました。
八月二日には臨時村議会を開き、工事請負契約締結の議案承認(三千万円以上の工事は議会の議決がある)を受けて本契約をなし、現在、杭打ち練り込みなどの基礎工事がすすんでいます。
この工事が無事に完工するよう皆様の協力をお願いいたします。



冷暖房完備の集落センター完成予想図

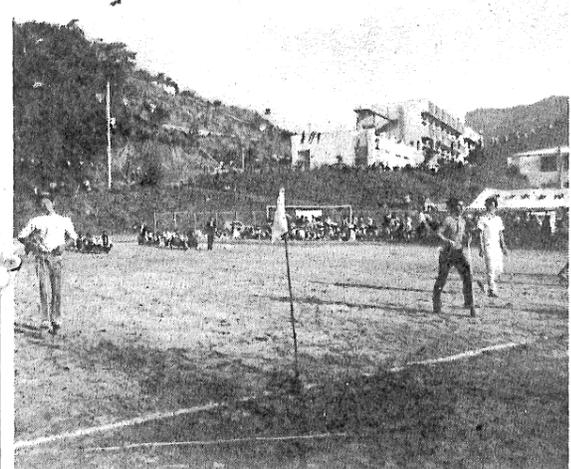
長浜町、KK一宮工務店
大州市、村上工業株式会社

V4をとげた大伍分館 —第14回村民運動会—

第十四回村民運動会が十月十日、河辺中学校グラウンドで盛大に行われました。前日は準備の途中から雨となり心配されましたが、当日はうそのように晴れあがり、朝はグラウンド整備で予定より一時間おくれで十時より開会式、大会長あいさつに続いて大伍分館から優勝旗の返還があり、また村民運動会三年連続優勝を遂げた大伍分館と、バレーボール優勝の

分館対抗種目得点表

種目	植松	坂本	大伍	北平	計
つなひき	1	2	3	4	28
カッパ競走	2	1	3	4	27
あんよは	2	3	4	3	33
年別別	4	2	3	4	22
得点	3	4	3	1	
競歩	2	3	4	1	
竹馬競走	1	2	3	4	
年別別	4	3	2	1	
ドラム	4	3	2	1	
2人3脚	4	3	2	1	
ボレー	4	3	2	1	
ボレー	4	3	2	1	



気はあせれどお血が気になるカッパ競走

ふるさとに 望む

大阪府 久保直
(旧姓 小西)

この十年間、年に一度は必ずふる里を訪ねることにしています。そのたびに道路の新設、拡張、舗装、そして砂防ダム、建設など、次々に環境が整備されているのに気がつきます。しかし、遠く大阪にいてふる里を想ふときは、いつも三〇年前のふるさとが浮かんで来ません。したがって、私の「ふる里に望む」は私の少年期の淡い思い出話に終始してしまおうと決まっています。

私の小学校時代、それも特に私の住まい(神納)付近は電燈がなく、またランプを灯す石油すらないので夜は早く寝てしまおうか、あるいはタイマツを燃やして勉強するしか方法がなかったのです。

また、交通機関はなく大洲とか長浜の町へ行く機会ほとんどありませんでした。高校入学で、あこがれの大洲に住むことができたが、級友からは田舎者としてよく冷やかされたので、山奥で生まれたことが大変恥ずかしかったものです。

それ以来、河辺村、私のふる里を誇りとし、二十五年も住んで来ました。

また昼食の時間には、松山市の愛好者で結成している松山市民吹奏楽団により、十曲ほど演奏していただき運動会が一段と華やかなりました。

当日の対抗種目による順位は次のとおりです。
優勝 大伍分館
準優勝 植松分館
敢闘 坂本分館
努力 北平分館

やねばし

「父と娘」……なにも「母と娘」を対比しようとするのではないが、父と娘の関係は何か情緒の匂いをもっている。娘を嫁がせる父親の寂しさ、複雑な感情の起伏などは、よくドラマなどで描かれていく。この点母親は、寂しいには違いないが、自分自身が歩んだ道であるためか娘を嫁がせることは、案外気丈である。

私も三人の娘をつぎと嫁がせ、他聞にもれず父親の複雑な心境を味わった。人間とは勝手なもので、自分達も過去何十年前に親達(家内の両親)に、寂しい思いや心配をさせたことを、今まで気がつかないものである。

年頃の娘を持つ父親であれば、或る日、或る時「お父さん実は……」と娘から、結婚の相談を受けても当然のことであるし、二十数年も愛し育てた娘が、好伴侶を選び、選ばれて結ばれる、まことに目出度いことである。相愛の彼と娘が、大きな幸せに向って巣立つてゆくのに、なぜか父親の心は大きくゆれる。喜びと寂しさが潮のように広がり打ち寄せる。いよいよ葬式の前後になると、父親の心境は極限に達して、家族としての最後の晩餐であり、強いて父親らしく振る舞い、やたらと酒を飲んで誤魔化そうとする。家族の者も察しているのか、余り止めださない。娘も心復て、「お父さんお母さん、長い間お世話になりました」等と言わぬやうにしている。お蔭で涙もろい私も子供達の前では恥をかかずに通してきた。しかし、就寝してからの私達夫婦は、明日嫁ぐ娘の、幼ない頃からの成長の過程を追って、さまざまな想いを寝ついたら、娘の併せを無言の裡に祈りながら、明日の葬式では流せない涙を流しつづけたものである。(T)

